

目 次

1 はじめに	1
—種実圧痕から農耕の伝播と受容を探る—	
(1) 土器の種実圧痕とは	2
(2) 粃圧痕から弥生農耕の解明がはじまった	5
2 レプリカ法とは	6
(1) 粃圧痕を調べる技術の歩み	6
(2) レプリカ法とは	10
(3) レプリカ法の手順	13
(4) レプリカ法の実践例から	18
3 初期農耕はどこまで遡るのか	23
(1) 縄文時代食料採集経済説の成立	23
(2) 縄文農耕論について	25
(3) 縄文時代後晩期のイネ栽培説の検証	26
(4) 朝鮮半島の動向と比較	31
4 レプリカ法から初期農耕の伝播と受容を考える	33
—山陰地方—	
(1) 山陰を調査する意義	33
(2) 最も古いイネ・アワ・キビ圧痕の遺跡	35
ア 島根県板屋Ⅲ遺跡の粃痕	35
イ 鳥取県青木遺跡のアワ圧痕	36
ウ 島根県三田谷Ⅰ遺跡のキビ圧痕	38
(3) 千代川流域遺跡の比較から	40
ア 鳥取県本高弓ノ木遺跡	41
イ 本高弓ノ木遺跡のコクゾウムシ圧痕	43
ウ 鳥取県智頭枕田遺跡	43
エ 智頭枕田遺跡への初期農耕の伝播経路	47
(4) 流入した土器から考える	47
5 各地の調査から見えてきたこと	51
(1) 徳島県庄・蔵本遺跡と徳島県三谷遺跡	51
—アワ・キビは畠で栽培された—	
(2) 焼畑栽培の検討	54
(3) 東海や中部高地では打製石斧が増加する	56
(4) ハマグリ加工に特化した遺跡にイネ、アワ、キビ栽培が加わる	59
—愛知県大西貝塚—	
(5) アワ、キビ栽培の導入と緩やかな変化	61
—長野県御社宮司遺跡—	
(6) 多数の種実圧痕をもつ土器から	62
6 最後に —イネの問題を—	65
あとがき	69
引用文献	70
図版出典	73
資料所蔵機関	73
本書作成でお世話になった個人、機関	74